



# 募金活動には意味がある

青森市立橋本小学校 6年 永澤健斗

「募金をお願いします。」

僕はカブスカウトで募金活動をしたことがあります。活動をしていると、最初はスカウトのお母さんたちが

「頑張っているね。」

と言って募金をしてくれました。他の人も来て、

「えらいね。頑張ってるね。」

とニコニコしながら募金をしてくれました。

募金活動が楽しくなってきて、

「募金をお願いします。」

と言う声もだんだん大きくなってきました。

たまに素通りする人には、

「なんで協力してくれないんだろう。」

とちょっとムツとしたり、悲しくなったりしました。でも、その時の僕は募金の本当の意味を知りませんでした。

活動前に隊長が

「この募金は何に役立っているか知っていますか。」

と、僕たちに聞きました。その時は何も答えられませんでした。本当の意味を考えることもなく、みんなで協力して活動することがとても楽しかったのです。

でも、6年生になって、赤い羽根募金には意味があることを知りました。この募金には3つの意味があるそうです。1つ目は、決められた誰かを助けるのではなく、助けを必要とするみんなを助けることです。2つ目は与える人も与えられる人も自由だということです。3つ目は、道端に募金箱があれば、知らない誰かが勝手にもっていくかもしれないけれど、信頼関係があるからこそ、赤い羽根募金が成り立つということです。僕が楽しくてやっていた活動には、実は意味があったのです。僕が「募金をしてくれなかった人にムツとしたり、悲しくなったりしたのは、募金の意味をきちんと理解していなかったんだ。」と少し恥ずかしくなりました。

そして、もう一つ大切なことを知りました。今、僕も含めてコロナウィルスで今までのような生活ができない人たちがたくさんいます。僕も4月から1ヵ月半近くオンライン授業で学習しました。僕はおうちのタブレットを使うことができましたが、タブレットやスマホがなかったり、インター

ネットの環境がなかったりして、オンライン授業に参加できない子供たちがいるということを知りました。そしてそういう環境を必要としている人たちに赤い羽根募金が役立っていることがわかったのです。

「たくさん見知らぬ人が平等に学べるように、募金活動をしてみたい。」

赤い羽根募金の意味を理解した今だからこそそのように思っています。そしてきっともっと大きな声と広い心で呼びかけるでしょう。

「皆さん、赤い羽根募金をお願いします。」と。